

緊張と充実の4年間でした。新たな発想で道志村と
富士北麓地域の発展に挑戦します

議員活動の後半(平成20年12月～22年)を振り返って

春本番も間近です。道志村と富士北麓地域の皆様、日々いかがお
過ごしていただいでしょうか。

皆様のご支援により、県政の場にお送りいただいた私の
の県議会議員第一期の残り期間も秒読みとなって参り
ました。県議就任の直後から、お届けしてまいりました
私の活動レポートも、4年間の最終号となりました。今
号は、私の議会活動後半2年間の代表質問と一般質問
を要約してお届けしました。

振り返って見ると、新人議員として、緊張かつ充実
した日々を過ごさせていただきました。おかげさまで、
県政、および私たちの地域の課題も明確に捉えることが
できるようになったと感謝しております。
年明け早々には、横内県政2期目がスタートいたしました。
私は県政与党の中でも生粋の知事側近県議会議員として、
山梨、道志村と富士北麓地域の暮らしの向上を目指してい
きたいと願っております。

白壁賢一



お気軽にご意見をお聞かせください。

「白壁賢一」で検索してください!

白壁賢一

検索

TEL 0555-73-3737 FAX 0555-73-3757

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津1505

白壁賢一 公式サイト: <http://www.shirakabekenichi.jp/>白壁賢一 E-Mail: Shirakabe@kawaguchiko.ne.jp

【平成22年2月定例議会一般質問(3月1日)】

北麓の活性化のカギ握る道路整備
大胆な発想で新交通システムに挑戦を

2月定例会質問項目

- ☆ 企業立地の推進について
- ☆ 自殺防止対策について
- ☆ ワイン産業の振興について
- ☆ 富士北麓地域の活性化のための道路整備について
- ☆ 公立学校の耐震化の推進について
- ☆ 富士山への新交通システムの導入について

本会議場で第6回となる私の質問には、郡内地区の支持者も皆さんに大勢駆けつけていただき、心強い質疑が出来たと今でも感謝して

いる。「企業立地」「ワイン振興」「樹海の自殺対策」等の外に、富士北麓の観光事業に直結する道路整備への提案、要望を徹底して質した。

質問と提言

企業立地の推進について

横内県政の基本戦略は、地域経済の活性化により税収を上げ、それによつて福祉・医療・教育を充実させるとされる。その柱として企業立地を掲げているが、昨今の世界、日本経済の不振から、実績は上がっていない。県に「産業立地室」が発足し

本県は10万人当たりの自殺率が全国ワースト1位を続けるという憂慮すべき状態にある。自殺者の多発する青木ヶ原樹海の場合、自殺者の4割が県外者や身元不明者であり、本県の自殺者抑制策は、樹海対策が最重要とも思われる。

ワイン産業の振興について

あらゆる産業が低迷している昨今、活路を開くためには、地域独自の産業強化は欠かせない。本県において、そのひとつにワインがある。先般企画されたEU向けの「甲州ワイン海外プロモーション」には知事自らトップセールスを展開するなど大いに評価できる。そうした中で、ワインにおける国際競争で、甲州ワインが生き残れるかという懸念もある。

富士北麓地域の活性化のための道路整備について

富士北麓地域は近く開通する若彦トンネルの効果に大きな期待を寄せている。但し、総合的な道路体系が整備されたかという点、また課題は多い。例えば、峡南地方からのアクセスとなる国道300号は身延町中之倉地区の整備が急務。中部横断道開通の際には重要路線になるからだ。

富士山への新交通システムの導入について

富士山有料道路への新交通システム導入可能性調査」の報告書は、実現の可能性を否定するための調査という感が否めない。過般、スイスの登山鉄道を視察する機会を得たが、富士山にも同様なスケールの施設導入は不可能ではないと感じた。ハードルは高いが大胆な発想でのシステムの構築を検討願いたい。

公立学校の耐震化について

公立学校の耐震化を図る文科省の予算は、新政権の「高校授業料無償化」等の財源捻出のため削減され、全国自治体の要望の4割に止まっているとの報

現在「和食にあう甲州ワイン」をキャッチフレーズにしているが、さらなる技術向上が必要。



【平成21年9月定例議会一般質問(10月5日)】

福祉、環境、観光、道路整備など 県政の重要課題を指摘、県の姿勢を質す

任期後半に入った平成21年9月定例議会では、就任してから5回目の本会議での質問に立ちました。全国的には相変わらず景気低迷から脱出できないまま、県政の課題も山積していました。その中から、「暮らしや

すさ日本一」を目指して県が策定している各種事業についての成果を質しました。北麓関連では、富士山観光にかかわる駐車場整備問題に地域の要望を提出しました。



9月定例県議会での質問項目

- ☆ やまなしグリーンニューディール計画推進について
- ☆ 学校給食における地産地消の推進について
- ☆ 介護保健施設等の整備について
- ☆ 富士北麓への広域周遊観光拠点駐車場の整備について
- ☆ 若彦トンネルの有効活用と月夜野トンネルの早期着手について

質問と提言

国が公表した高齢者介護保険施設等の整備状況(平成18～20年度)では、12万4000余床の整備目標に対する充足率は45%の低率。本県は61%

介護保険施設等の整備について



県が立案した「やまなし食育推進計画」に関する、具体的な取組みなどについて質した。計画では、学校給食での県産食材の使用率を平成22年度末

学校給食における地産地消の推進について

全国トップクラスの日照時間、豊富な水資源を保有する本県は、「資源大国土梨」と言っても過言ではなく、環境対策の



国の経済対策である「低炭素革命」に呼応して、県が議会に提案した「やまなしグリーンニューディール計画」について、具体的な説明を求めるとともに、実効ある施策となるよう求めた。

グリーンニューディール計画について

みならず、経済活性化にも積極的に利用すべきである、という私の持論に基づいて、太陽光、水力活用の具体的な施策への説明を求めた。

と全国平均を上回っているものの、実際の整備が進んでいない。「暮らしやすさ日本一」を標榜する県政に、とても放置できない状況にある。

併せて、他県の実例などから「地産地消を推進するには、現場の給食関係職員の熱意と支援する自治体の姿勢や生産者の努力が欠かせない」などの注文を添えた。

【平成20年12月定例会(12月12日)一般質問】

主要テーマは 「富士北麓から山梨を変える」

議会活動2年目の終盤となった平成20年12月定例県議会では、質問者として4回目の本会議での質問にたった。未だ新人議員であったが、2年近い活動を通して、各種委員会での審議、県内外への行政視察による会派の勉強会などにより、

県政の各種課題について、積極的に指摘、提案することを心掛けた。特に、一般質問では、「富士北麓から山梨を変える」ということをテーマに、県政与党としての立場から、富士北麓地域の課題を重点的に問い質すことが出来た。



12月定例会質問項目

- ☆ 県有施設のストック・マネジメントについて
- ☆ 北麓・東部のものづくり人材育成について
- ☆ 富士山への新交通システム導入について
- ☆ 富士山の入山料について
- ☆ 富士北麓地域の道路整備について
- ☆ IVVオリンピックアード大会について

質問と提言

県有施設のストック・マネジメント

国及び県の経済低迷の折、県営の各種施設は、「老朽化したから建て替える」といった従来の方式は不可能になってきている。これからは、各施設の長寿命化や維持保全費用の削減を図る、いわゆるストックマネジメントの時代になるはず。県所有の公共施設のうち、

北麓・東部のものづくり人材育成について

富士北麓・東部地域は、機会電子製造業など製造業の立地が進み、事業所数・製造品出荷額は県全体の約3割を占めている。さらに観光業や織物業などの地場産業は地域の有力産業として大きな役割を果たしている。いまの不況の中にあつて将来的にはクリーンな環境を生かした高度機械電子産業の集積も期待できる。

その一方で、これら産業の次代の人材を育成すべき教育の場の整備には課題がある。中

富士山への新交通システム導入について

富士山への登山客はこの数年増加の傾向にある。喜ばしい反面、富士スバルラインのマイカー利用者増加により、排ガス等による植生への悪影響、ゴミの不法投棄等、環境保全には様々な課題が生じている。

先ごろには富士北麓・東部地域選出県議8名による「富士山新交通システム等の勉強会」を発足させ地元では真剣に取り組み機運が高まっている。県の本格的な対策を期待したい。

富士山への入山料徴収について

今夏(平成20年)、富士登山者数は、過去最高の24万7000余人に達し、10年前に比べると10万人の増加となった。当然、事故、ゴミの放置、高山植物へのダメージ、登山道の破損等々、各種の問題が生じてくる。

これらの課題の処理費用として、富士吉田市が先陣を切

富士北麓地域の道路整備について

甲府盆地と富士北麓地域を結ぶ道路については、利用度が低かった若彦路も「若彦トンネル」が貫通し、本格的な活用の段階に入る。

そうした中で、最重要路線である135号は、戦後一貫して整備が続けられてきたものの、河口湖周辺を中心にさらなる整備が求められている。現在、長年にわたって、地域の

IVVオリンピックアード大会について

「富士山に、世界が集まる4日間」をスローガンに、来年、富士北麓地域で開催される第11回IVVオリンピックアード大会は、国際観光地である北麓地域のイメージをグレードアップする絶好の機会と捉えている。

今回はアジア地域で初めて

富士北麓への広域周遊観光拠点駐車場の整備について

先般、県が施策した第4期介護保険施設整備事業では、現場の市町村への支援をどの

ように進めていくのかについて質した。

県は富士スバルラインのマイカー規制に関連して、森林の中に8ヘクタール1500台の駐車場整備の方針を示したが、これについて、①施設の利用はマイカー規制期間の15日だけ、②設置場所の効率的な利用が配慮されていないの2点について疑問を呈した。

若彦トンネルの有効活用と月夜野トンネルの早期着手について

トンネル開通を数カ月後に控えた時期であり、従来の要望である若彦トンネルの活用及び関連道路の整備について重ねて質した。

若彦トンネルの開通は地域住民の悲願達成ということではあることを強く要望した。



終わらせることなく、東の入口である月夜野トンネルの早期実現についても県に強く要望し、中部横断道、リニアなど県土の将来を見据えた総合的な事業に関連させた整備が必要であることを強く要望した。